


OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager バージョン 1.1 インストール ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	4
前提条件.....	4
vROPS サポートマトリクス.....	4
章 2: OMIVV の設定	5
章 3: OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager バージョン 1.1 のインストールまたはアップグレード	6
OMIVV インスタンスの追加.....	6
OMIVV インスタンスの削除.....	7
章 4: トラブルシューティング	9

はじめに

vRealize Operations Manager 用 Openmanage Management Pack を使用すると、VMware vCenter 用 OpenManage Integration (OMIVV) 4.0 以降で管理する Dell EMC PowerEdge サーバおよびシャーシの正常性状態を監視し、重要なメトリクスを分析できます。

トピック：

- [前提条件](#)
- [vROPS サポートマトリクス](#)

前提条件

以下は、vRealize Operations Manager 用の OpenManage Management Pack をインストールするための要件です。

- VMware vRealize Operations Manager (vROPS) バージョン 6.5 以降がインストールされていることを確認します。
- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack は、OMIVV をインストールする必要があります。
- Dell EMC ホストを管理するための OMIVV ライセンスを持っていることを確認します。OMIVV ライセンスについては、*OpenManage Integration for VMware vCenter Quick Installation Guide for vSphere Web Client* を参照してください。
- 500 台を超えるサーバを管理する場合は、vROPS 構成が特大 (6.5 以上) に設定されていることを確認します。
- Dell EMC 管理パックを使用してホストを管理するには、ホストが Dell EMC OMIVV 接続プロファイルの一部であることを確認します。
- 第 12 世代および第 13 世代 PowerEdge サーバの正確な管理と監視を行うには、iDRAC 2.40.40.40 以降のファームウェアバージョンを使用することをお勧めします。
- 第 14 世代 PowerEdge サーバの正確な管理と監視を行うには、iDRAC 3.00.00.00 以降のファームウェアバージョンを使用することをお勧めします。

vROPS サポートマトリクス

vROPS	Stratus	OMIVV	PowerEdge サーバ世代
6.3	1.1	4.0	12,13
6.4			
6.5		4.1	12,13,14
6.6			

OMIVV の設定

vROPS を設定するには、OMIVV で拡張モニタリングのサポートを有効にする必要があります。

拡張モニタリングのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。

1. OMIVV 管理コンソールを起動するには、Web ブラウザーを起動し、**https:\\<Appliance IP>**または**<Appliance Hostname>**と入力します。
2. パスワードを **ログイン** フィールドに入力します。
3. 左ペインで、**アプライアンス管理**をクリックして、**拡張モニタリング**セクションまでスクロールダウンします。
4. **拡張モニタリング** セクションで、**編集**をクリックし、次に **有効**または**無効**をクリックして拡張モニタリングのサポートを有効または無効にします。拡張モニタリングのサポートはデフォルトで無効に設定されています。

OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager バージョン 1.1 のインストールまたはアップグレード

OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager バージョン 1.1 をインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Dell.com/Support/Home に移動します。
2. すべての製品から **選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
3. **ソフトウェアとセキュリティ** グループボックスで、**仮想化ソリューション** をクリックします。
4. 製品をダウンロードするには、必要な製品バージョンをクリックします。
製品サポートページが表示されます。
5. リリースノートと OpenManage Management Pack .pak ファイルで構成される自己解凍型の .exe ファイルをサポートサイトからダウンロードします。
6. .exe ファイルを解凍します。
7. **vRealize Operations Manager** コンソールを **https://<IP または Hostname または FQDN>** として開きます。
8. **vRealize Operations Manager** の左ペインで、**管理 > ソリューション** をクリックします。
9. ソリューション タブで、**+** をクリックします。
ソリューションの追加ページが表示されます。
10. .pak ファイルの場所に移動するには、**参照** をクリックします。
11. **OpenManageAdapter** .pak ファイルを選択します。
12. **アップロード** をクリックします。
13. 続行するには、**次へ** をクリックします。
Dell エンド ユーザー ライセンス契約 (EULA) が表示されます。
14. **契約条件に同意する** を選択し、**次へ** をクリックします。
15. **終了** をクリックします。

これで、**OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager** が、**vRealize Operations Manager** のソリューションタブに表示されます。

メモ: 管理パックのインストールが完了するまで、ソリューション UI がしばらくの間 (約1分ほど) フリーズすることがあります。

メモ: ソリューションの詳細タブで OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager をバージョン 1.0 から 1.1 にアップグレードする場合は、アダプターのインスタンスごとに **収集の停止 > 収集の開始** をクリックする必要があります。

メモ: インストールまたはアップグレードした後、Dell のダッシュボードおよび Dell のカスタム アイコンを表示するためには、OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager に再度ログインする必要があります。

トピック：

- [OMIVV インスタンスの追加](#)
- [OMIVV インスタンスの削除](#)

OMIVV インスタンスの追加

ホスト名、または FQDN あるいは IP アドレスのいずれかと OMIVV と vROPS の適切なログイン資格情報を入力して、アダプターインスタンスを追加していることを確認します。

アダプティブインスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザで、**vRealize Operations Manager** ユーザーインターフェイスを起動します。
2. 管理者としてログインします。
3. **管理**→**ソリューション** をクリックします。
ソリューションの**管理画面**が表示されます。
4. **OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager** を選択して、**設定**をクリックします。
5. **ソリューションの管理** — **OpenManage vRealize Operations Management Pack** 画面で、次の手順を実行します。
 - a. **インスタンス設定**：
 - i. **説明**フィールドに、説明を入力します。
 - b. **基本設定**：
 - i. ホスト名、または OMIVV インスタンスの FQDN、あるいは IP アドレスを入力します。
 - ii. ログイン資格情報を追加するには、**+** をクリックします。
 - iii. OMIVV で認証するための適切な管理者（デフォルトユーザー名）の資格情報を入力し、vROPS で認証するための管理者権限を持っていることを確認します。
 - iv. **OK** をクリックします。
 - v. 入力した設定を検証するには、**テスト接続** をクリックします。

i **メモ:**

拡張モニタリングが有効になっているか確認します。有効でない場合は、次のようなエラーメッセージが表示されます：**ターゲットシステムへの有効な接続を確立できません。拡張モニタリングは無効です。OMIVV 管理者ポータルで拡張モニタリングを有効にしてください。**詳細については、「[OMIVV による設定](#)」を参照してください。

- c. **詳細設定**：
 - i. **詳細設定** を展開し、リストから collector を選択します。
 - ii. この値を **True** に設定し、自動検出を使用することをお勧めしています。
 - iii. **設定の保存** をクリックします。
 - iv. **閉じる** をクリックします。

OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager が OMIVV サーバー インスタンスからデータの収集を開始します。

i **メモ:**

OMIVV インスタンスを追加すると、サーバとシャーシ用のデータとアラートが3回のデータ収集サイクル後に投入されます。デフォルトではデータ収集サイクルは5分ごとに実行されます。

i **メモ:**

物理サーバと ESXi ホストの間の関係を築くためには、vROPS の資格情報が必要です。

i **メモ:**

vROPS の無効な資格情報を入力すると、次のようなエラーメッセージが表示されます：**ターゲットシステムへの有効な接続を確立できません。vROPS 資格情報が正しいか確認してください。**

6. ホームページに移動して、**ダッシュボード**リスト ドロップダウンメニューから **OpenManage のダッシュボード** を選択します。OpenManage のダッシュボードが表示されます。

i **メモ:**

OMIVV の IP が変更されている場合は、**ソリューションの管理** ウィザードで IP をアップデートします。

i **メモ:**

既存の OMIVV インスタンスを別の OMIVV と交換する場合は、既存の OMIVV インスタンスを削除して新しい OMIVV インスタンスで設定します。

OMIVV インスタンスの削除

1. ブラウザで、**vRealize Operations Manager** ユーザーインターフェイスを開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. **管理**→**ソリューション** をクリックします。

ソリューションの管理画面が表示されます。

4. **Management Pack** ソリューション をクリックします。
5. **OpenManage vRealize Operations Management Pack** を選択し、**設定** をクリックします。
アダプタインスタンスのリストが表示されます。
 - ① **メモ:** すべてのアラートをクリアしてから、OMIVV アダプタインスタンスを削除してください。
6. 必要なインスタンスを選択し、**削除** をクリックします。
 - ① **メモ:**
インスタンスの削除後に OMIVV で拡張モニタリングを無効にできます。
 - ① **メモ:** OMIVV で管理されるサーバとシャーシの数によっては、削除に数分かかることがあります。

トラブルシューティング

- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.1 にアップグレードしてから、HDD リソースのメトリクスが表示されません。
 - vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.1 にアップグレードした後で、正しい HDD メトリックを反映するには、アダプタインスタンスの **収集を停止** してから **収集を開始** する必要があります。複数インスタンスの場合は、すべてのアダプタインスタンスで同じタスクを実行する必要があります。
- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.1 にアップグレードしてから、HDD の履歴データが表示されません。
 - vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.1 にアップグレードした後では、HDD の履歴データが使用できなくなります。これは想定どおりの動作であり、最新のアップグレードでは、アダプタが HDD と SSD のデータを個別に提供します。ただし、履歴データは SSD のみで使用できます。時間アダプタが更新されるため、HDD メトリクスが新たに作成されます。
- 新しいアダプタインスタンスを作成して設定した後で、ファームウェアメトリクスを確認できません。
 - ファームウェアカタログが更新されても、ファームウェアメトリクスの収集は行われません。OMIVV でインベントリを再度実行し、次の収集サイクルの後でメトリクスをチェックする必要があります。
- アダプタインスタンスを削除すると、不明な状態のリソースが表示されます。
 - アダプタの設定されたインスタンスを削除すると、インベントリビューにサーバとシャーシの古いインスタンスが不明な状態で表示されることがあります。そのようなコンポーネントはインベントリエクスプローラのページから削除します。
- アダプタインスタンスを削除し、新しいインスタンスを作成して同じ OMIVV で設定しましたが、今度はウィジェットにデータが設定されません。
 - データを設定するには、ダッシュボードでウィジェットを編集し、変更を加えずに保存します。